

1) 文を文節に分けて図の丸に書き入れ、文ふうせんを完成させる。  
2) できた文ふうせんをみて、文を読ませる。

a) 文節のつながりとして文の構成を図示する体験。  
b) 言葉のつながりの焦点を述部において文構成。文意識を育てる。  
c) 後の「文の木」や「文サボテン」の先行課題。

Date  
Note  
評



あめのひ、  
おかあさんと  
わたしは、  
おとうさんをむかえに  
えきへ  
いきました。

ふうせんにことばを  
かぎいれよう。

